

母と結婚し水原本町下町にお茶屋を出しました。その向かいに洋装店を開き、母が任されることになりました。父はわくわく系で、お客様を喜ばせることが好きで、洋装店も生地が天井に届くほどたくさん並んだ店で繁盛しました。次に父はアメリカで流行っている、当時では珍しいスーパーマーケットをお茶屋と洋装店を閉めて、開店しました。新潟からハワイアンを呼んだり、セールやクリスマスイベントなど賑やかにしていました。

ところが、価格を抑えたために問屋さんから商品を卸してもらえなくなり、商品が品薄になり閉店に追い込まれました。父は初心に戻ってお茶屋に絞って営業をすることにしました。ですが、あれほど賑やかに商売していた記憶が蘇って、新潟市でお店を出したいと言い出したのを母が止めました。借金を返済し終わって、スーパーマーケットの時の経験で、お茶だけではなく即席ラーメンやのりたまなど普通の店では手に入らないような食品を卸したので、食品店に喜ばれました。

そうこうするうちに番頭さんが暖簾分けして独立することになり、お祝いの席まで設けて送り出したのですが、お得意様を奪われる事態になりました。当時父は神経痛で営業は社員に任せていたのですが、自分が回ると言い出しました。私は東京の証券会社に入社することになっていたのですが、父の運転手をすることにしました。父の横にしながら番頭さん

の悪口などは言わずに、お得意様にお茶のことを丁寧に説明して営業して回るのをずっと見ていました。本当に男の本気、社員、家族のために働く様子を見て父を尊敬するようになりました。

その後、ウオロクさんがスーパーマーケットを展開するということで、うちもテナントとして多店舗展開が始まりました。逆境に雄々しく立ち向かう父の姿、支える母の様子を見て凄いなと感じました。父からは「人生には必ず追い風が吹く。その時にお金がないと追い風に乘れない。普段から貯金をしておく」など、たくさんの大切な言葉を聞きました。

母もセンスがあっていろいろな事をやっていたましたが、都度父の思いで止めることもありました。父が亡くなった日に看護師さんから最後は「ありがとう」と大声をあげて亡くなりましたと聞き、母と大泣きしました。母は「お父ちゃんと一緒になって商売の楽しさ、面白さを味あわせてもらって、幸せでした。もし来世でお父ちゃんが結婚する時にまた私を嫁にもらってくださいか。ありがとうございました」と感謝の言葉をかけていたのを見て感激しました。

父も母もいろいろな課題や逆境、試練にあいましたが、常に後ろを見ないで今できること、お客さんに喜んでもらうことをやってきました。私も見習って、自分を磨きチャレンジをしていきたいと思っています。